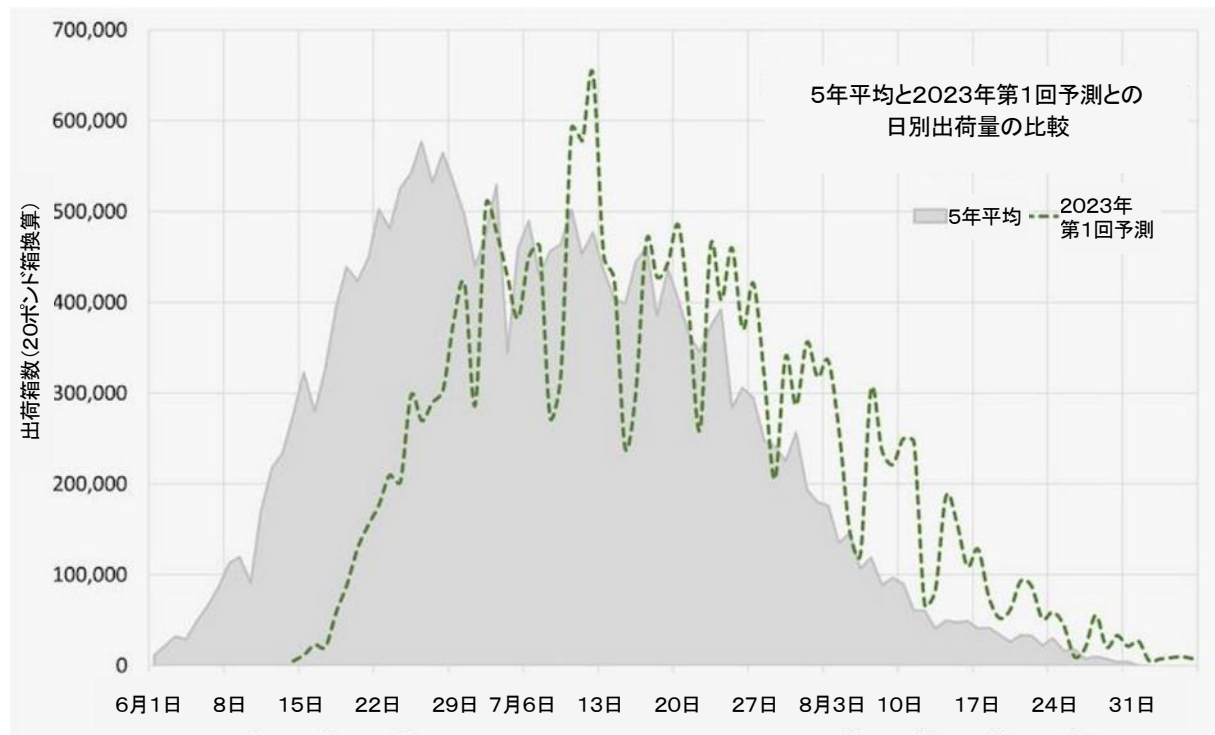


## 米国 北西部のサクランボ生産者は50%増収を期待

FreshPlaza 2023年5月19日

米国北西部サクランボ生産者協会は、出荷量が1,990万箱(20ポンド(約9kg)/箱)に達する可能性があると考えている。これは、2022年の1,330万箱と比較して、50%の増加となる。



この1回目の推計は、積算温度、開花のタイミング、及び樹上の着果状況の確認に基づいて行われた。最も早い収穫は6月15日ころに開始されると見られる。

暖かい天気が続けば、10列サイズ(直径67/64インチ=26.6mm)のサクランボが最も多くなることが予想される。ワシントン、オレゴン、アイダホ、ユタ、モンタナ各州の代表者は、2023年の作柄は果実の量と果実のサイズの点で大いに有望であると判断した。過去2週間、この地域の気温は全般的に華氏80度台(約27~32℃)であるため、果実の肥大のための細胞分裂と糖の蓄積に最適なことは明らかである。今年は4月8日に最も早い果樹園で開花が始まり、4月15日に満開となった。サクランボ(甘果オウトウ)の通常の生育サイクルは、受粉から収穫まで60~65日である。

早生と中生の地域のサクランボは、うまく着果したようである。これは期待されていたことであり、2023年5月18日の時点で、果実は順調に肥大している。晩生地域の生産者もまた、2023年にやや控えめから平年並みの作柄になると予想している。7月4日以降に収穫される果樹園では「フラッシュブルーム(一斉開花)」が起り、受粉に問題が生じた。生産者らは「予想よりも着果が少ない果樹園が一部で見られ、そこでの収穫量は場所により1エーカー当たり5~10トンとなりそうだ。晩生の産地で大きな果実と高い糖度が期待されることは朗報だ」と述べている。

北西部の早生の出荷量は、カリフォルニア州産から移行するサクランボを重視する小売業者にとって、大いに役に立つはずである。カリフォルニア州産のサクランボから収穫開始の遅れた北西部産への移行期に、小売業者が7月4日の祝日(独立記念日)用のサクランボを調達する機会は十分にあるはずである。